

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書（2025年度助成者）

作成日 2025年8月13日

氏名（フリガナ）	長谷川香乃（ハセガワカノ）
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2025年8月4日（月）～8月9日（土）
大学名 学年	慶應義塾大学 5年

今回、プログラムに参加できてとても良かったです。

参加動機は、本プログラム趣旨の一部である「海外臨床留学や海外実習参加に必要な能力を養成する」ためでした。自大学の短期臨床留学プログラムで2026年3月に4週間オランダに留学することが決まっており、これまで語学留学を含めて留学の経験がなかったため、本プログラム趣旨は自分にぴったりだと考え参加することにしました。

もともと英語が得意ではなくこれまで英語に触れる機会も少なかったため、特に英語でcommunicationをとることに苦手意識がありました。今回のプログラムは英語そのものの学習が目的ではなく、英語を使ってHistory TakingやCase Presentationをすることがメインだったため不安がありました。それでも、事前に配られたTaking a Complete Patient HistoryやStudent Case Presentation Formatを活用することなんとかクラスについていくことができました。先生方はどなたも本当に優しく、それぞれの生徒のレベルに合わせた指導をしてくださっていたと思います。英語が苦手、かつまだ医学に知識が未熟な私に対しては、Case Presentationの医学的な深い内容よりも、とにかく英語を使うことや簡単な英語表現からでも応用してできることを教えてくださいました。Workshopの後半では当初抱えていた不安はほとんどなくなり、自分のできる範囲の英語を最大限使ってcommunicationをとることを楽しめていたと思います。英会話への苦手意識が完全になくなつた訳ではないですが、これまで英語を話すときに感じていた恥ずかしさが薄れ、逆にその楽しさを少し感じられるようになり、積極的に英会話をしてみようという気になれたことが、本プログラムに参加した一番の収穫だったと思います。また先生方だけでなく、周りの生徒の存在も非常に大きかったです。英語のレベルに関わらず、みんな積極的にcommunicationをとっていて、その姿に翻弄されて私も積極的にクラスに参加することができました。生徒同士のHistory Takingでは、適切な英語表現が思い浮かばず困っていた私に優しくアドバイスをくれる生徒がいたり、難しい問題が出た時は手分けして調べ協力して学習したりしました。短い期間の中で多少タイトなスケジュールではありましたが、終始和やかな雰囲気で、でも真剣に学習できていたと思います。

クラスだけでなく、実際にハワイを含むアメリカで働いていらっしゃる先生方によるSpecial Lectureも非常に印象的でした。それぞれvisionを持っていて、それに向かって並々ならぬ努力をされてきたのが伝わってきました。私自身は将来アメリカで臨床医として働くことは考えていないのですが、講演をしてくださった先生方の医師としての人間性・考え方に対する感銘を受け、私も自分の夢に向かって努力したいと改めて思うことができました。

3月の留学前のウォーミングアップのような感覚で気軽に参加したプログラムでしたが、期待を超える学びと出会いがあり、また将来が楽しみになりました。本当にいい経験になりました。ありがとうございました。